

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070502226
法人名	有限会社 仁愛ケアサービス
事業所名	グループホーム あかつき園
所在地	福岡県北九州市小倉南区石田町3-20
自己評価作成日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成25年1月30日	評価結果確定日	平成25年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方との関わりを持っていただけるよう、地域で行われる行事に参加している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自治会に加入し、回覧板の受け渡しを行っている。近隣には公園や地域の集会所があり、日頃から散歩のコースにもなっている。近隣に居住する職員を通じて、災害時の連携も含む働きかけが行われており、今後の地域拠点としての活動展開も楽しみである。外出支援には力を入れており、その方の状態を考慮して、散歩の時間を調整し、日常的に戸外に出る機会を作っている。法人独自のアセスメント様式や個人情報使用同意書等の内容が充実しており、丁寧な情報収集が行われ、本人本位の対応に活かされている。ベテラン職員と若い職員とのコンビネーションもよく、明るく活気ある雰囲気が伝わってくる。複数の医療機関や専門医との連携を図る等、適切な医療を受けられるよう支援し、本人、家族の安心できる環境作りにも努めている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を玄関などに貼り、つねに管理者およびスタッフが意識を持って行動しています。	理念は各所に掲示され、職員や来訪者の目に留まる様にしている。新人職員には研修や業務を通して、理念の浸透を図っている。法人の理念とは別に、事業所の理念として5項目を掲げ、日頃より意識付けを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われている盆踊り大会や敬老会に参加している。また、近所のかたには積極的に挨拶や世間話をするようにこころがけています。	自治会に加入し、回覧板の受け渡しを行っている。近隣から通勤する職員もあり、日頃より自然体のお付き合いが定着している。集会所も近くにあり、地域の行事には参加しやすい。ホームの畑作りに協力して頂いている方もおり、入居者の方々も春の種まき時期を楽しみに待っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今は出来ていないので今後は出来るようにしたいです。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回運営推進会議を行っています。運営推進会議には、町内会長様に参加していただき、意見交換を行っています。	家族代表、町内会長、地域包括支援センター職員の参加を得て、定期的に開かれています。家族には、「ふれあい通信」で運営推進会議の日時を知らせている。議事録は玄関にて、いつでも閲覧可能となっている。会議では意見交換や事業報告がなされ、入居者の方々の日常の様子についても共有しながら、情報交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には区役所の方に参加していただき、意見交換を行っている。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員の参加を得ており、日ごろより、相談したり、アドバイスをいただいている。生活保護を利用されている方もおり、定期的にケースワーカーの方が訪れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのようなことが身体拘束になるのかを確認し、身体拘束を行わない為にはどうしたらよいかをミーティングで話し合っています。定期的に行われている研修に参加し、ミーティングにて伝達研修を行っています。また、施設長会議にて得られる、他施設の情報等についても、必ず伝えるようにしています。	新人研修や、法人内の地域密着型事業所が持ち回りで開催する研修会に、職員が交代で参加している。参加者は伝達講習を行って、他の職員とも情報の共有を図り、理解を深める様にしている。環境整備等への工夫も行われており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待を行わない組織を作る為にはどうしたらよいか、ミーティングで話し合っています。定期的に行われている研修に参加し、ミーティングにて伝達研修を行っています。また、施設長会議にて得られる、他施設の情報等についても、必ず伝えるようにしています。		

福岡県 グループホーム あかつき園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に行われている研修に参加し、ミーティングにて伝達研修を行っています。	日常生活自立支援事業や成年後見制度については、入居契約時に説明を行っている。パンフレットも用意して、問い合わせがあった時に対応できるようにしている。新人研修や持ち回り研修で学ぶ機会を持っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時・解除時にはゆっくり時間をかけ理解していただける言葉で説明を行うように心がけています。改定などについてははっきり説明を行い同意を得るようにしています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に常時、意見箱を設置し、いつでもご意見をいただけるようにしています。	玄関に意見箱を設置している。事業所便りや運営推進会議の議事録は玄関に置いてあり、いつでも閲覧可能となっている。また、行政の相談窓口がわかる様にポスターも掲示されている。家族からの意見や要望はミーティングで話しあい、反映できるように心がけている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なミーティングを行うなど、管理者とスタッフが話し合える時間を設け、スタッフの意見を反映できるようにしています。また、日常業務内でもスタッフの意見が出しやすい環境作りを心がけています。	年度初めに、職員に自己目標を設定してもらっている。半年ごとに確認を行い、管理者と話し合う機会を設けている。定期のミーティングや日々の業務を通じて、意見や要望の収集に努め、事案によっては全体での検討を行い、運営への反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ一人一人と個人面談を行い、少し頑張れば達成可能な目標や少し高いレベルの目標(チャレンジ目標)を半年毎に設定しています。また、定期的な達成度の確認を行い、場合によっては新たな目標を設定をしながら、スタッフの働き甲斐・向上心を持って働ける環境作りを心がけています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用面接に関しては、本部の方だけではなく、施設長も参加するようにしている。協調性などがあるかを基準に判断するように心がけています。事業所で働く職員については、主に、人事考課を利用して、能力が発揮できる環境・いきいきと働ける環境・自己実現が出来る環境作りとなるように心がけています。	職員の採用にあたっては、人間性や意欲を重視し、年齢や性別等による排除は行っていない。法人責任者とともに施設長も面接に参加している。定年制は設けているが、状況や意欲に応じて、延長も可能である。個人面談や人事考課を通じて、向上心やモチベーションの確保に向けた働きかけを行っている。新人研修や内部研修、ケアプラン勉強会を実施する等、職員個々のスキルアップを支援している。	

福岡県 グループホーム あかつき園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者様に対する声掛け・言葉使いは、常に目上の人、人生の先輩に対しての対応を心がけています。また、利用者様の状況、利用者様の家族の状況等に関係なく、平等な声掛け、平等な介護、平等な対応を行うように心がけています。	新人研修や、法人として各事業所持ち回りで実施される合同研修の中で取り上げ、様々な視点から、人権教育、啓発に取り組んでいる。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフが、定期的に行われている新人研修やケアプラン勉強会などに参加できるような機会を確保しています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等に参加した際は、他施設との情報交換を行い、自施設で実践できることは行っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して入居して頂く為に、事前の見学・体験入居・事前訪問等を行うなどしながら、事前に入居予定者(ご家族)様の不安を知り、ひとつひとつ対応していくことで、少しでも安心して入居していただけるようになっています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用を開始して頂く前に、ご家族に不安を取り除いていただけるように、事前の見学・体験入居・事前訪問等を行うなど、支援を行っている。また、不安なこと、要望に関しては、一つ一つ丁寧な対応を心がけ、言いやすい環境作りに心がけています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前訪問の際には、本人・ご家族としっかりとお話をさせていただき、「その時」必要なサービス・支援を見極め、また提供できるように心がけています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家庭で過ごしているような雰囲気作りに努め、また、スタッフと一緒に、入居者個々に応じて、食器洗いや料理、掃除など、生活の場を提供し、ほめたり、お礼を言ったり、一緒に笑ったりしながら喜んでいただけるように心がけています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設で行う行事には、参加の声掛けを行っています。また、ご家族様からの電話・ふれあい通信等を利用し、入居者さまの近況をお知らせすることを意識して行うことにより、共感し共に支えている環境を心がけています。		

福岡県 グループホーム あかつき園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の際には、出来るだけ今まで大切にされていた物、いつもそばにあった物等を持参していただき、今までの生活を継続している雰囲気心がけています。	家族との連携を活かし、お墓参りや外出に出かけられるよう支援している。継続して、グループホームの畑作りに協力して頂いている方もおり、交流を図っている。旧知の方の訪問を受ける機会もあり、ともに歓迎し、関係性の継続を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	場面に応じて、利用者同士の関わりを見守ったり、スタッフが間に入り、関わりを作ったり、利用者・スタッフを含めて、皆で支え合っている雰囲気づくりや、その場面に、ありがとうや笑顔が自然と生まれるような支援・環境づくりを行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調悪化などにより退居になってしまった場合、それで終わりではなく、定期的にお見舞いに行くなどし、交流を持てるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に主に、ご家族様に対して、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、入居者様の性格、暮らし方、現在交流があるお友達・親戚などの情報を含めて、細かく聞き取りを行い事前の準備を行っている、また、入居後は入居者様の思いや要望をしっかりと見守り・傾聴し少しでも実現できるように対処しています。	家族の協力を得ながら、法人独自のアセスメントシートを活用した情報収集を行っている。センター方式を参考にしており、内容は充実している。生活歴やライフスタイル、馴染みの関係性等について、細やかな視点で情報収集が行われている。職員はこのシートを活用して、思いや意向の把握に努め、ケアのあり方を検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族様から情報を提供していただき、スタッフ間で共有できるようにしている。また入居後は、ご本人様からも情報をいただきこれまでのサービス利用の経過等の把握に努めています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	しっかりと見守り、介護記録を記入し見返し、再度見守る事によって、入居者様の生活パターンを把握しています。また、しっかりと見守り・しっかりと傾聴することにより、心身状態の把握、また、料理・食器洗い・掃除など行動レベル等を見極めながら、有する力などの把握に努めています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回開催されるミーティングの場で、入居者様個々の担当スタッフが生活状況説明を行い、スタッフ全員で入居者様にとってより良い環境の場を提供する為にどうしたらいいかなど、今後の対応を考え実行しています。またご家族様には、定期的に近況をお知らせし、来園された時や電話対応の時に同じ認識で一緒に考えていける状況をつくるように心がけています。	担当者会議には、職員全員が参加している。本人、家族の意見を踏まえ、担当職員を中心として協議を行い、介護計画を作成している。モニタリングやミーティングを通じて、現状の確認や見直しの必要性について検討している。	

福岡県 グループホーム あかつき園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や伝達事項(ノート)に入居者個々の情報・状況等ちょっとした変化でも気付いた時は記録するように心がけ、スタッフの共通の認識となるように心がけている。また、ミーティングなどでその情報を出し合い、情報を細かく共有しながら利用者様への対応を一緒に考え一緒に確認し実践しています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な病変・車椅子を伴う時やご家族様のその時の家庭状況に応じて、病院への入院・受診に係る搬送のお手伝い・付き添い、または外出支援等も行っています。また、入院時には、必要な物品の準備やお見舞いを通じて、状況確認、病院との交流(看護師との情報交換)ご家族への情報提供(情報交換)、洗濯物の回収等の支援を行っています。また、レクの際は必要に応じて明けや休みのスタッフも参加しています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に運営推進会議を行っています。町内の役員さんや、区役所の方にもご参加いただき交流しています。また、入居者様との散歩の時など、すれ違う方には、必ず挨拶するようにしています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医についての説明を行っています。ご家族、ご本人様に納得・了承して頂いた場合のみ、ご利用頂いています。また、入居前に受診していた病院などについては、ご家族様及びご本人様が安心して暮らしていただけるよう希望を尊重し、継続可能となるように支援を行っています。	入居契約時に、かかりつけ医について確認を行っている。これまでのかかりつけ医への受診については、家族との連携により対応している。協力医療機関より、2週間に1度の往診や訪問看護を受け、訪問歯科も同様である。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携先の看護師に24時間体制にて、連絡・助言・指示をいただける体制を取っています。場合によっては定期的な訪問(2週間に1度)以外にも緊急に来園頂いています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、主治医からの紹介状及び過去の病歴、園での最近の状態などの情報提供、場合によってはご家族の代行等も行っています。入院中も定期的にお見舞いに行き、病院側の要望等も聞き、出来る事は対応する等、病院との連携をとれる環境を作っています。ご家族にも連絡を取り、状態・情報の確認と共有を行うなどしています。		

福岡県 グループホーム あかつき園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができるを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居後に重度化した場合や終末期のあり方については、事前にご家族の意向を伺い文章にて残し、スタッフがご意向に沿った対応が出来るようにしています。実際、重度化した場合やその可能性が見られる場合は、ご家族・主治医・施設長にて話し合いの場を設けて、今後の方針を決定し、その後、ご家族・施設長にて頻回に連絡を取りあう体制を作っています。	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時に指針を本に説明を行い、本人、家族の意向確認を行っている。事業所として出来ること、出来ない事を説明し、状況の変化に伴い、家族や医師とともに話し合いを重ねながら方針の共有に努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故発生時に備えて、個々の対応マニュアルを作成し、いつでも直ぐに手に取れる体制を作っています。また、定期的にミーティングの場でマニュアルに沿って、確認・学習会を行うことで適切な対応が取れるように準備しています。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度実、火災・避難訓練を行っています。訓練後は、全員でミーティングを行い、ひとつひとつの行動を確認・洗い出しを行い、全員が利用者をお守り出来る体制作りを行っています。	夜間も想定して、年に2回避難訓練をしている。備蓄は3日分を用意している。訓練後はミーティングを行い課題を明確にししながら、緊急時に活かせる様取り組んでいる。また、近隣住民である職員を通じて、町内への働きかけが行われており、災害時には心強い。	今後は、地域との連携を確認する機会を確保していく意向もあり、協力体制の構築に向けて働きかけを継続していく予定としている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失禁時のみならず、排尿・排便の確認についても、入居者様の羞恥心・プライドを傷つけないような対応・介護を心がけています。当然、生活全般においても、おひとりおひとりの人格を尊重する対応、誇りやプライドを決して傷つけないように、また入居者様にとってどうなのかを考えながら、振り返りながら対応しています。	法人としての個人情報使用同意書が整備されており、事項によっては選択が可能であり、細やかな視点と配慮が確認できる。排泄ケアや入浴時の対応については特に留意し、プライドや羞恥心への配慮を心掛けている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ひとつひとつの行動に対して、必ず、声を掛けながら本人の意思を確認しながら、行動するようにしています。意思表示が困難な方についても、同様に行動するように心がけています。また必要に応じて、テレビを録画し、翌日に見て頂くなどしています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりのペースやその日のご希望、その場面でのご希望を最大限尊重することを中心に置き、『入居者様にとってどうなのか』という視点を持ちながら、支援を行っています。		

福岡県 グループホーム あかつき園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居される前の状況を把握し、また化粧品や服等も含めて持参していただきいます。入居後も以前と同じようにオシャレや身だしなみが継続できるように支援しています。身だしなみ・オシャレの意識をいつまでも失ってもらわないように心がけています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時々、利用者様の希望を聞いたり、調理のお手伝いや片付けをしていただきながら、食べていただくだけではなく、食事全般についても、一緒に作り上げている意識、役割がある、役に立っているという認識を持っていただける、そのうえで喜んでいただけるように心がけている。	栄養バランスや嗜好等を踏まえ、献立を作成している。個々のペースを尊重しながら、和やかな食事風景があった。誕生日のメニューは主役の意向を尊重している。時には、お好み焼きやホットケーキを皆で作り、「食」のプロセスを楽しんでいる。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量・水分量については、食事毎、日々の量を常に把握できるように、個人毎に記録を行っている。食事は栄養バランスを考えながら作っています。医師の指示により、減量が必要な方については、おかず量を全体的に少し減らし、ご飯の量をg単位で対応している。水分摂取が少ない方にはジュースなどを飲んでもらっています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立な方には毎食後、歯磨きをしていただいています。介助が必要な方にはスタッフの介助により、口腔ケアを行っています。また、定期的に歯科医、歯科衛生士による訪問歯科を行い、虫歯のチェック・対応、歯垢の除去を含めた対応をしていただいています。また、お口の体操も行っています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々排泄時は記録を取っています。おひとりおひとりの大まかなパターンや行動やくせを把握し、自立の人にも時々声掛けしたり、介助が必要な方には概ね決まった時間にトイレへ誘導したり、くせをみながら誘導したり、前日・当日の水分量や排泄状況に応じて支援しています。	リズムパターンシートを用い、個別の状況やパターンの把握に努めている。ミーティング等を通じて、個別の支援について検討し、声かけやトイレ誘導を行っている。さりげない対応に努めながら、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご本人様の生活リズムパターンを大切に、崩さないように心がけています。便秘の対応については、都度のチェックと担当医と連携をとり主に下剤を使用し対応しています。また、個別に牛乳を飲んで頂いたり、散歩やレクリエーション・外出行事に参加していただき、運動する視点でも支援しています。		

福岡県 グループホーム あかつき園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には決まった曜日、決まった時間にご入浴いただいておりますが、本人の希望があれば、出来るだけ対応します。また、浴室内と浴室外の温度差に配慮した対応をしています。体調に不安がある場合や事前の血圧が高い場合などは本人に確認を取り、時間や入浴日をずらす等対応しています。便失禁時など、陰部洗浄・清拭、場合によっては、シャワー浴等で清潔を保つ対応をしています。	入浴スケジュールは設定しているが、毎日入浴準備を行っており、希望や状況に柔軟な対応に努めている。寒い時期は脱衣所に暖房を入れ、温度差に気を付けている。入浴拒否の方には、時間をおいて声掛けをしたり、気分転換を図っていただき、自分から入っていただける様支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者お一人お一人に合わせた入眠支援を行っている。夜間遅く見たいTV番組がある時等は本人にご納得いただいた上で録画機能を利用して、後日見て頂く等しながら対応しています。また、夜間の巡回を定期的に行い、体調が悪い方には対応し、眠れない方には居室にて一緒にお話したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援しています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様お一人お一人について、介護要約(入院時対応書)緊急時の対応書を作成しています。入居者様が飲まれているお薬、副作用の状況を書き、スタッフがいつでも手に取って見れるようにしています。また、月1回のミーティングの場にて変更があったお薬の情報等を交流している。お薬の誤飲を防ぐ為、服薬時には、必ず二人で声に出し確認支援をしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理・食器洗い・掃除など行動レベル等を見極めながら、役割を持っていただき、褒めたり、お礼を言うことで、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。また、散歩を希望される方には一緒に散歩に出かけたり、外出を望まれる方には、定期的に出外できる機会をを設け支援しています。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に、外出行事にて支援を行っているが、本人の希望があってもスタッフが同行出来ない場合は、ご家族様に協力していただきながら外出の希望を叶えるための支援をしています。	散歩を日課としている方、また、声かけを行い、その日の状況にあわせ近くの公園やホームの周囲を散歩する方など、個別の対応が行われている。お墓参りなどは、家族との連携も図っている。月に1回程、外食に出掛けている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に買い物等でお金を使う場面がある場合は、ご本人様の分としてお金をお渡しし、ご自分で商品を選んでいただける支援等も行いながら、よりお買い物を楽しんでいただけるように支援しています。		

福岡県 グループホーム あかつき園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様のご家族に電話をしたい場合は、事前にご家族様と打ち合わせ等を行い、ご本人様の希望が叶えられるられるよう支援しています。手紙を書かれた時などはその時間関わったスタッフが必ず切手を貼り、ポストに投函する等支援しています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、利用者様も関わって作ったカレンダー・季節に応じた独自のポスター・トイレ等の案内板・季節の花や柿などを飾り、また、リビングのソファに座れば大きな窓から庭や垣根・空が眺められる配置にし、季節感・生活感を実感しながらお過ごしいただけるよう支援しています。	天窓のある、広々とした居間兼食堂を中心にして、左右に居室が配置されている。居間には、入居者の方が以前画かれた油絵が掛けられ、季節の作品や、モビール風の飾りが彩をそえている。二つの大きなソファは、V字型に外に向かって置かれていて、テレビを見ながら、庭の畑が見れる様に配置されている。入居者の方が思い思いの場所でくつろぐ姿が見られた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	40畳程のリビングに、2つの食卓があり、何時でもくつろげる場所となっています。また、3人掛けソファ3つをTVの前や少し離して設置する事で独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、その方が使い慣れたタンスや今まで大切にされていた物、いつもそばにあった物等を持参していただくようにしています。また入居後も、必要に応じて、使い慣れた物を持ってきていただくなどしながら、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしています。	引き出し付き畳ベット、小物用キャビネットが備品として用意されている。押入れもあり、収納スペースが十分に確保されている。自宅より、筆筒などの使い慣れた家具や、読書好きの方は単行本が持ち込まれている等、その方にとっての暮らしが反映されている。手作り作品を掲示したり、筆筒の上に大切な物を飾ったりと、個人の居室作りとなっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残されている能力に応じて、食器洗いや洗濯物干し等を一緒にしていただいています。		